

老年看護学演習

責任者・コーディネーター	地域包括ケア講座 相馬 一二三 准教授		
担当講座・学科(分野)	地域包括ケア講座		
対象学年	3	区分・時間数	演習 22.5 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

老年期は、身体の諸機能が低下するが、衰退現象のみに視点を置くのではなく、高齢者の持てる力に注目し、セルフケア能力を活用した自立・自律の援助が大切である。高齢者に特徴的な疾患・症状を学び、援助の必要性の科学的な根拠を持ち、個別に応じた援助ができるよう知識・技術を学ぶ。また、高齢者のセルフケア能力の向上を支援する技術・態度を習得する。さらに、最後までその人らしく生きることを支援する方法を身に付ける。

・教育成果（アウトカム）

高齢者の生活機能の観点からのアセスメントを理解することで疾患や障害を有している生活者として幅広くとらえて考えることができる。健康障害時の苦痛を緩和する技術を学ぶことによって、個々の対象に応じた看護実践を身につけることができる。また、健康の回復過程に伴い、チームアプローチの必要性や社会資源の活用の実際を学ぶことによって、高齢者の生活の場に応じた支援方法を身につけることができる。さらに、高齢者との関りをとおして自尊心を尊重する態度やもてる力を引き出す援助を身につけることができる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：1. 2. 3. 4. 5. 7. 8.

・到達目標（SBO）

1. 高齢者の特徴をふまえたケアの目的や必要性を学び、健康レベルに応じたケアが理解できる。
2. 高齢者の特徴をふまえたケアを学ぶことで、根拠に基づいたケアが実施できる。
3. 高齢者の生活機能の視点からアセスメントし、目標志向型の看護過程の展開ができる。
4. 高齢者の回復過程に応じた看護を学ぶことで、持てる力を引き出す看護を実施できる。
5. 高齢者の生活史や自尊心を理解することで、尊重した態度を身につけることができる。
6. 高齢者の生活の場が変化することを学ぶことで、多職種との連携や社会資源の活用方法が理解できる。

・ 授業日程

(矢) マルチ 4-A 講義室

(矢) マルチ 2-A 実習室、 (矢) マルチ 2-B 実習室

【演習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
4/4	木	2	地域包括ケア講座	相馬 一二三 准教授 吉岡 智大 助教	<p>演習についての今後の進め方のオリエンテーション（演習時は、人数が多いため2日コマ続きの時には、学生が半数ずつに分かれて実施する）</p> <p>高齢者の生活を支える看護の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の生活行動情報の着眼点を理解できる ・ 高齢者の強みに注目する理由について理解できる ・ 生活機能の観点からからアセスメントし、目標志向型の「看護の焦点」のとらえ方など看護過程のプロセスを理解できる
4/9	火	3	地域包括ケア講座	相馬 一二三 准教授 吉岡 智大 助教	<p>肺炎のある患者・脳梗塞のある患者の看護過程の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2つの事例を基にGWを行い生活機能の観点からアセスメントし、目標志向型「看護の焦点」を明確にすることができる
4/9	火	4	地域包括ケア講座	相馬 一二三 准教授 吉岡 智大 助教	<p>肺炎のある患者・脳梗塞のある患者の看護過程の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2つの事例を基にGWを行い生活機能の観点からアセスメントし、目標志向型「看護の焦点」を明確にすることができる ・ GWの結果を発表することができる（発表：1G・・8分）

4/17	水	3	地域包括ケア講座	相馬 一二三 准教授 吉岡 智大 助教	<p>摂食嚥下障害のある患者の看護の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 摂食嚥下のメカニズムを想起し、アセスメントできる ・ 誤嚥予防の体位を実施し、観察のポイントが理解できる ・ 食事介助時の留意点が理解できる ・ 誤嚥性肺炎の予防の方法が理解できる ・ 嚥下の仕組みをe-ラーニングで学び理解できる
5/14	火	1	地域包括ケア講座	相馬 一二三 准教授 吉岡 智大 助教	<p>摂食嚥下障害のある患者の看護の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誤嚥予防の体位を整えることができる ・ 摂食嚥下のアセスメントができる ・ 食事介助しながら観察ができる ・ 誤嚥性肺炎の予防の清潔動作ができる（義歯の洗浄・口腔ケアなど） ・ 実施した内容を評価できる
5/14	火	2	地域包括ケア講座	相馬 一二三 准教授 吉岡 智大 助教	<p>摂食嚥下障害のある患者の看護の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誤嚥予防の体位を整えることができる ・ 摂食嚥下のアセスメントができる ・ 食事介助しながら観察ができる ・ 誤嚥性肺炎の予防の清潔動作ができる（義歯の洗浄・口腔ケアなど） ・ 実施した内容を評価できる
5/22	水	2	地域包括ケア講座	相馬 一二三 准教授 吉岡 智大 助教	<p>移動・起立・移乗を支える看護の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 右片麻痺の患者を仰臥位から端座位に体位変換の方法が理解できる ・ ベッドから車いすへの移乗の方法が理解できる ・ 移乗時の留意点が理解できる ・ 移乗動作をe-ラーニングで学び理解できる

5/29	水	3	地域包括ケア講座	相馬 一二三 准教授 吉岡 智大 助教	<p>移動・起立・移乗を支える看護の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・右片麻痺の患者を仰臥位から端座位に体位変換を実施できる ・ベッドから車いすへの移乗・歩行の介助を安全・安楽に実施できる ・実施した内容を評価できる
5/29	水	4	地域包括ケア講座	相馬 一二三 准教授 吉岡 智大 助教	<p>移動・起立・移乗を支える看護の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・右片麻痺の患者を仰臥位から端座位に体位変換を実施できる ・ベッドから車いすへの移乗・歩行の介助を安全・安楽に実施できる ・実施した内容を評価できる
5/31	金	2	地域包括ケア講座	相馬 一二三 准教授 吉岡 智大 助教	<p>もてる力を引き出す看護の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下肢の筋力増強運動の方法を理解できる ・セルフケアに向けた患者の指導が理解できる（タオル絞り・更衣動作など） ・フットマッサージの方法を理解できる ・関節可動域訓練のe-ラーニングで学び理解できる
6/5	水	3	地域包括ケア講座	相馬 一二三 准教授 吉岡 智大 助教	<p>もてる力を引き出す看護の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下肢の筋力増強運動が実施できる ・セルフケアに向けた患者の指導ができる（タオル絞り・更衣動作など） ・フットマッサージができる ・実施した内容を振り返ることができる
6/5	水	4	地域包括ケア講座	相馬 一二三 准教授 吉岡 智大 助教	<p>もてる力を引き出す看護の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下肢の筋力増強運動が実施できる ・セルフケアに向けた患者の指導ができる（タオル絞り・更衣動作など） ・フットマッサージができる ・実施した内容を振り返ることができる

6/11	火	2	地域包括ケア講座	相馬 一二三 准教授 吉岡 智大 助教	<p>患者の退院支援の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスチャージプランニングの必要性が理解できる ・退院に向けてのアセスメントができる（服薬管理） ・多職種との連携・調整の必要性と効果的な方法が理解できる ・GWでアセスメントし、多職種との連携の計画立案できる
6/19	水	2	地域包括ケア講座	相馬 一二三 准教授 吉岡 智大 助教	<p>社会資源の活用の計画の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅退院する場合の社会資源の活用とその計画を立案できる ・GWを行い具体的な計画立案ができる
6/26	水	2	地域包括ケア講座	相馬 一二三 准教授 吉岡 智大 助教	<p>高齢者とレクリエーションの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで考えたレクリエーションを対象に実施できる ・レクリエーションが高齢者に与える影響を考えることができる

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	高齢者看護の実践 第4版	堀内 ふき他	メディカ出版	2016
教	高齢者の健康と障害 第5版	堀内 ふき他	メディカ出版	2016
参	生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 第3版	山田 律子他	医学書院	2016

・成績評価方法

筆記試験 80%、演習の取り組み 20%とし総合的に評価する。

*演習の取り組みは、演習の評価項目と参加姿勢とGWへの参加姿勢・提出物などで評価する。

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

事前学修については、各回最後に提示する次回の事前学習の予習ポイント・課題に取り組むこと。また、各回最低 30 分以上を要する。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

提出されたレポートは、コメントを付して返却する。技術に関するフィードバックは、その都度指導し、学生個々の技術の習得に努めます

【授業方法について】

演習に関しては、e-ラーニングをとおしてイメージしやすいように工夫します。

グループワークなどアクティブラーニングを取り入れて、問題解決方法やコミュニケーション能力を身につけます。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

看護師（別表 3）：専門分野Ⅱ 老年看護学

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	プロジェクター（VPL-FHZ55）	1	講義用スライド投影
演習	車いす	8台	移乗動作の練習
演習	杖	7本	歩行訓練時に使用